

設問 以下の文章を読み、それぞれの問いに答えなさい。

スペイン王室の援助で大西洋を横断したクリストファー・コロンブスは1492年、アメリカ大陸周辺のサンサルバドル島に到達した。その後、コロンブスはカリブ海の島々に上陸するうちにトウガラシを見つけ、黄金製品や先住民捕虜などとともにスペインに持ち帰った。これ以後の新旧大陸間の様々な交換は現在、「コロンブス交換」と呼ばれている。

その後、インド洋方面に進出していたポルトガル人航海者らにより、17世紀までにトウガラシはアフリカ、インド、日本、朝鮮半島などにも伝わった。朝鮮半島の代表的な食品の一つ、キムチもコロンブス交換によってトウガラシが伝播した結果だった。

このほか、コロンブス交換で、新大陸からカボチャ、ジャガイモ、トマト、七面鳥、タバコなどが欧州各地に伝わった。現在、イタリア料理ではトマトは欠かせない食材だ。反対に欧州からは小麦、牛、馬、羊、鉄製品、車輪などが新大陸に持ち込まれた。

スペインの食文化に関する著書がある東京外国語大名譽教授のT氏は「コロンブスがトウガラシを持ち帰ってから半世紀後には、スペインの至る所でその栽培が広がっていたとの記録がある」と解説する。トウガラシは焼いて食べたり、広く料理の味付けに使われたり、観賞用に植えられたりしていたという。

交換で欧州にもたらされたジャガイモ、サツマイモ、トウモロコシ、上流階級向けのパイナップルやチョコレート原料となるカカオなどは、欧州人の食生活を豊かにした。立石さんによれば、「これらが渡来したことについて、『コロンブスの贈り物』⁽¹⁾などの言葉を使い、航海者たちの業績がしばしば称賛された」という。

1972年に米国の歴史学者アルフレッド・クロスビーが『コロンブス交換』を出版。東半球と西半球の間で、おびただしい種類と量の動植物が交換された実態を調べ、地球上に劇的な変化が起きたとする研究に拍車がかかった。

コロンブス交換には、負の側面⁽²⁾もある。欧州から天然痘をはじめ様々な病原体が新大陸に持ち込まれ、先住民社会に壊滅的な打撃を与えた。コロンブスの新大陸到達から500年の節目を迎えた92年には、欧州側の歴史観で「コロンブスが新大陸を発見した」と表現されてきたことに、先住民団体などが異議を唱えた。

長年、中南米を中心に、トウガラシ、ジャガイモなどの農作物栽培の歴史を現地で調査・研究してきた国立民族学博物館名誉教授のY氏は2017年、『コロンブスの不平等交換』と題した著書を発表した。コロンブス交換という「等価交換を想像させる言葉はふさわしくないと感じた」ことが執筆のきっかけだったという。

たとえば、欧州側から新大陸に持ち込まれたサトウキビは、奴隷制による大農園経営で欧州人が一方的に利益を得た。疫病の流行や欧州側による植民地化も深刻な問題を引き起こした。

なかでもY氏が不当と感じているのは、「トウガラシやトウモロコシはコロンブスが持ち帰ったことで『コロンブスの贈り物』などと称揚されているのに、それ以前に、それらの作物の品種改良に努力した先住民たちの貢献がほとんど無視されていること」だ。

メキシコでは、紀元前7000年頃からトウガラシが栽培され、南米ペルーの山岳地帯ではさらに古くから農耕に利用されていたとみられる。Y氏は、「中南米各地で、野生種から栽培種への品種改良が行われた形跡がある。アンデス山脈高地でしか栽培されていない品種もあり、先住民がどのような努力をしてきたかの研究はまだまだこれからだ」と話している。

【出典】読売新聞2023年5月2日より抜粋

問1 傍線(1)『コロンブスの贈り物』とあるが、これは何を指すか。欧州人の食生活に与えた影響を中心に、本文中から具体例を用いて200文字から230文字で説明しなさい。

問2 傍線(2)「負の側面」とあるが、これは何を指すか。本文中から具体例を用いて250文字から280文字で説明しなさい。